

保育士養成課程を有する大学における子育て支援活動 ~ 「ぶんぶんひろば」の教育的意義について ~

著者	伊藤 孝子
雑誌名	紀要
号	21
ページ	(51) - (63)
発行年	2019-03-20
URL	http://doi.org/10.32125/00000039

保育士養成課程を有する大学における子育て支援活動 — 「ぶんぶんひろば」の教育的意義について—

伊藤 孝子

抄録：

本学では、学生の保育感覚や乳幼児の発達理解を促進し、保育実践力を豊かに醸成するとともに、地域の子育て世代のニーズ等を把握し、地域の行政機関にフィードバックすることで、地域の子育て支援に貢献することを目的に「ぶんぶんひろば」に取り組んでいる。本稿では、学生や、保護者、教員によるアンケート等から、「ぶんぶんひろば」の教育的効果や、保育士養成課程を有する大学における子育てひろばの意義について検証した。今後も学生の保育力・実践力の向上を目指し、地域に根ざした子育て支援の場を充実させたい。

キーワード：子育て支援 子育てひろば 保育実践力 子育て世代のニーズ

1. はじめに

少子高齢化・情報化などの進展により、社会総がかりで次代を担う子どもたちを心豊かにたくましく育てることが求められて久しい。保育士養成課程を有する本学においては、未就園児の子育て支援を大学として行い、学生の保育感覚や乳幼児の発達理解を促進するために、平成25年度（2013年度）から「ぶんぶんひろば」（以下 ぶんぶんひろば）を実施している。このぶんぶんひろばを実施するに当たって、平成28年（2016年）3月には、学習施設「翠湖館」（あすなるホール）をオープンさせ、参加する乳幼児や保護者が安心して施設を利用できるように、授乳室や幼児用トイレを設置するなど、施設面での充実を図った。

本事業は、子ども学科の学生が、地域の未就園児と保護者を対象に、親子が楽しめる様々な子育て支援の催しを行うもので、アクティブ・ラーニングを取り入れ、地域課題である「子育て世代の支援（人口減少対策）」の解決にむけて実施しているものである。そして、この活動を通して学生と教員の保育力、専門性の向上を図り、大学が地域社会に貢献する場と位置づけ、園の子育て支援や地域の子育て支援に貢献できる人材の育成を目指している。

本研究では、本学が学生の保育感覚や乳幼児の発達理解を促進し、保育実践力を豊かに醸成することを目的に取り組んでいる、ぶんぶんひろばの教育的効果を検証し、保育士養成課程を有する大学における子育て支援の意義について明らかにしたい。具体的には、ぶんぶんひろばを経験した学生の意識の変化と保育実習との関連について明らかにするとともに、研究教材として収集するアンケート等から地域の子育て世代のニーズ等を分析し、地域の行政機関にフィードバックすることで、地域の子育て支援に貢献していきたい。

なお、本論文は、ぶんぶんひろばWG^注の実践をもとに分析したものである。

2. 平成30年度ぶんぶんひろばの概要

（1）事業の目的

- ①大学の使命として、地域課題である「子育て世代の支援（人口減少対策）」の解決に貢献する。
- ②学生の実践的な学びの場と位置づけ、サービ斯拉ーニングや課題解決型学習を通じた学修成果の獲得を目指す。

③教員がぶんぶんひろばを通して実践事例の研究を行い、指導法や授業内容等の改善に資する。また、研究教材として収集するアンケート等から地域の子育て世代のニーズ等を分析し、地域の行政機関にフィードバックすることで、課題解決に貢献する。

(2) 事業の内容

<平成30年度> 年間7回開催 ()は担当(当日参加)した学生

第1回	4月25日(水)	「ふれあい遊び」	(2年生Aグループ19名)
第2回	5月23日(水)	「身体を動かして遊ぼう」	(2年生Bグループ21名)
第3回	7月11日(水)	「さわって遊ぼう」	(2年生Cグループ20名)
第4回	8月22日(水)	「水遊びをしよう」	(有志:1年生22名、2年生8名)
第5回	10月10日(水)	「ミニ運動会」	(1年生Aグループ13名)
第6回	10月27日(土)	「さまざまなコーナーで遊ぼう」	(1年生Bグループ13名)
第7回	11月28日(水)	「お楽しみ会」	(1年生Cグループ12名)

(3) 実施方法

- ・第1回～第3回:子ども学科保育士養成コース・小学校教諭養成コース 2年生を3グループに分けて実施
- ・第4回:子ども学科保育士養成コース・小学校教諭養成コース 1年生有志を中心に実施(子ども学科保育士養成コース・国文学科 2年生の希望者が参加)
- ・第5回～第7回:子ども学科保育士養成コース・小学校教諭養成コース 1年生を3グループに分けて実施

3. 研究の目的

(1) ぶんぶんひろばと保育実習との関連について分析し、その効果を明らかにするなど、ぶんひろばのもつ教育的意義を検証する。

(2) 地域の子育て世代のニーズ等を分析し、子育て支援としてのぶんぶんひろばの役割について検証する。

4. 研究の方法

(1) 学生アンケートの実施と分析

- 各回のぶんぶんひろば終了後に担当学生に実施
- 1年生は、秋学期終了時(12月)に振り返りを実施
- 2年生は、幼稚園での教育実習終了後(6月)に振り返りを実施

(2) 保護者アンケートの実施と分析

- 各回のぶんぶんひろばでアンケートを配付し、終了時に回収

(3) 教員アンケートの実施と分析

- 全7回のぶんぶんひろば終了後に実施

5. 学生アンケート調査の結果

2.(3)実施方法で示した通り、ぶんぶんひろばの企画・運営は、各回とも子ども学科の保育士養成コースと小学校教諭養成コースの学生がグループに分かれて行う。第1回～第3回は2年生、第5回～第7回は1年生が担当し、第4回

の「水遊びをしよう」については、夏休み中のこともあり、子ども学科1年生有志と子ども学科・国文学科2年生有志により実施している。そのため、一人の学生が、ぶんぶんひろばを経験する回数は年間1～2回となる。ぶんぶんひろばを経験した前と後の学生の意識をアンケートとしてまとめたものが表1である。そのアンケートの中で、計画通りぶんぶんひろばを実施することができたかを学生に尋ねたところ(表2)、2年生は41.7%が「そう思う」、53.3%が「まあそう思う」と回答しており、1年生(「そう思う」10.5%、「まあそう思う」68.4%)よりも満足度が高いと言える。当然のことながら、経験を重ねることが、学生の自信につながる。学生の負担も考慮しながら、ぶんぶんひろばへの参加回数を柔軟にしていけることも必要であると考える。

表1:平成30年度ぶんぶんひろば学生アンケート

		第1回 子ども学科 2年生		第2回 子ども学科 2年生		第3回 子ども学科 2年生		第4回 子ども学科 1年生有志※		第5回 子ども学科 1年生		第6回 子ども学科 1年生		第7回 子ども学科 1年生		ぶんぶん 合計		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1	今日のぶんぶんひろばは、計画通りにできたと思いますか。(1つに○)	そう思う	11	57.9%	8	38.1%	6	30.0%	6	27.3%	2	15.4%	1	7.7%	1	8.3%	35	29.2%
		まあそう思う	8	42.1%	12	57.1%	12	60.0%	16	72.7%	8	61.5%	7	53.8%	11	91.7%	74	61.7%
		あまりそう思わない	0	0.0%	1	4.8%	1	5.0%	0	0.0%	2	15.4%	5	38.5%	0	0.0%	9	7.5%
		そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
2	あなたは、これまで子どもへの関わりに自信がありましたか。(1つに○)	そう思う	5	26.3%	1	4.8%	3	15.0%	5	22.7%	1	7.7%	1	7.7%	4	33.3%	20	16.7%
		まあそう思う	10	52.6%	13	61.9%	8	40.0%	8	36.4%	5	38.5%	7	53.8%	3	25.0%	54	45.0%
		あまりそう思わない	2	10.5%	5	23.8%	8	40.0%	7	31.8%	3	23.1%	4	30.8%	5	41.7%	34	28.3%
		そう思わない	2	10.5%	2	9.5%	1	5.0%	2	9.1%	4	30.8%	1	7.7%	0	0.0%	12	10.0%
3	あなたは、これまで保護者への関わりに自信がありましたか。(1つに○)	そう思う	2	10.5%	1	4.8%	3	15.0%	3	13.6%	1	7.7%	0	0.0%	2	16.7%	12	10.0%
		まあそう思う	4	21.1%	8	38.1%	4	20.0%	5	22.7%	2	15.4%	4	30.8%	4	33.3%	31	25.8%
		あまりそう思わない	11	57.9%	10	47.6%	11	55.0%	10	45.5%	6	46.2%	6	46.2%	6	50.0%	60	50.0%
		そう思わない	2	10.5%	2	9.5%	2	10.0%	4	18.2%	4	30.8%	3	23.1%	0	0.0%	17	14.2%
4	今日のぶんぶんひろばで、子どもへの関わりに自信がもめましたか。(1つに○)	そう思う	7	36.8%	1	4.8%	3	15.0%	4	18.2%	2	15.4%	3	23.1%	7	58.3%	27	22.5%
		まあそう思う	11	57.9%	16	76.2%	11	55.0%	16	72.7%	8	61.5%	8	61.5%	3	25.0%	73	60.8%
		あまりそう思わない	1	5.3%	3	14.3%	3	15.0%	2	9.1%	3	23.1%	2	15.4%	2	16.7%	16	13.3%
		そう思わない	0	0.0%	1	4.8%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%
5	今日のぶんぶんひろばで、保護者への関わりに自信がもめましたか。(1つに○)	そう思う	5	26.3%	0	0.0%	2	10.0%	2	9.1%	2	15.4%	0	0.0%	5	41.7%	16	13.3%
		まあそう思う	10	52.6%	13	61.9%	7	35.0%	13	59.1%	5	38.5%	6	46.2%	7	58.3%	61	50.8%
		あまりそう思わない	4	21.1%	7	33.3%	8	40.0%	6	27.3%	5	38.5%	6	46.2%	0	0.0%	36	30.0%
		そう思わない	0	0.0%	1	4.8%	1	5.0%	1	4.5%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	5	4.2%
6	今日のぶんぶんひろばで、子どもや保護者への関わりについて新しい発見がありましたか。(1つに○)	そう思う	7	36.8%	1	4.8%	0	0.0%	9	40.9%	7	53.8%	8	61.5%	7	58.3%	39	32.5%
		まあそう思う	12	63.2%	20	95.2%	11	55.0%	13	59.1%	6	46.2%	5	38.5%	5	41.7%	72	60.8%
		あまりそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	5	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.2%
		そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%
7	今日のぶんぶんひろばでは、授業で学修したことが役に立ちましたか。(1つに○)	そう思う	12	63.2%	9	42.9%	2	10.0%	8	36.4%	7	53.8%	4	30.8%	7	58.3%	49	40.8%
		まあそう思う	7	36.8%	12	57.1%	11	55.0%	12	54.5%	5	38.5%	8	61.5%	5	41.7%	60	50.0%
		あまりそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	4	20.0%	2	9.1%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	8	6.7%
		そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
8	今後の保育(実習)に生かせようと思いますか。(1つに○)	そう思う	13	68.4%	11	52.4%	5	25.0%	18	85.7%	9	69.2%	11	84.6%	9	75.0%	76	63.3%
		まあそう思う	4	21.1%	9	42.9%	12	60.0%	3	14.3%	4	30.8%	2	15.4%	3	25.0%	37	30.8%
		あまりそう思わない	1	5.3%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%
		そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%

※アンケートは、1年生のみが回答

表2: ぶんぶんひろばは、計画通りにできたか

		2年生				有志	1年生					1~7回 合計
		第1回	第2回	第3回	1~3回		第4回	第5回	第6回	第7回	5~7回	
1	今日のぶんぶんひろばは、計画通りにできたと思いますか。(1つに〇)	そう思う	57.9%	38.1%	30.0%	41.7%	27.3%	15.4%	7.7%	8.3%	10.5%	29.2%
		まあそう思う	42.1%	57.1%	60.0%	53.3%	72.7%	61.5%	53.8%	91.7%	68.4%	61.7%
		あまりそう思わない	0.0%	4.8%	5.0%	3.3%	0.0%	15.4%	38.5%	0.0%	18.4%	7.5%
		そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	2.6%	0.8%

(1) 子どもへの関わり

子どもへの関わりに自信がもてたかについて、ぶんぶんひろばの前後で尋ねたところ、2年生では、「そう思う」と回答した学生が15%から19%と4ポイント増加、「まあそう思う」と回答した学生が52%から66%と14ポイント増加した(図1)。また、1年生では、「そう思う」と回答した学生が16%から32%と16ポイント増加、「まあそう思う」と回答した学生が39%から50%と11ポイント増加した(図2)。

図1: あなたは、子どもへの関わりに自信がありましたか(前)。自信がもてましたか(後)。

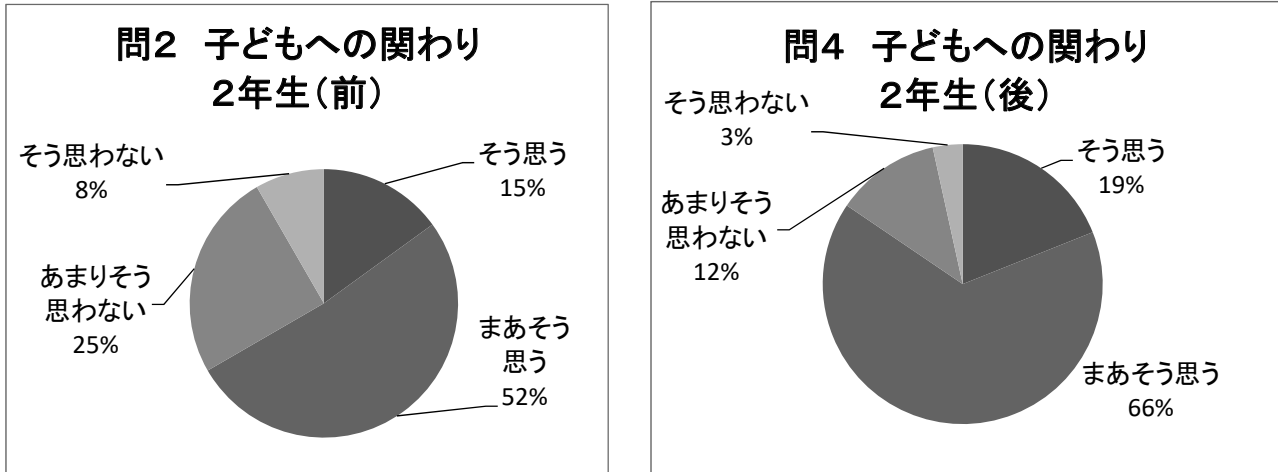
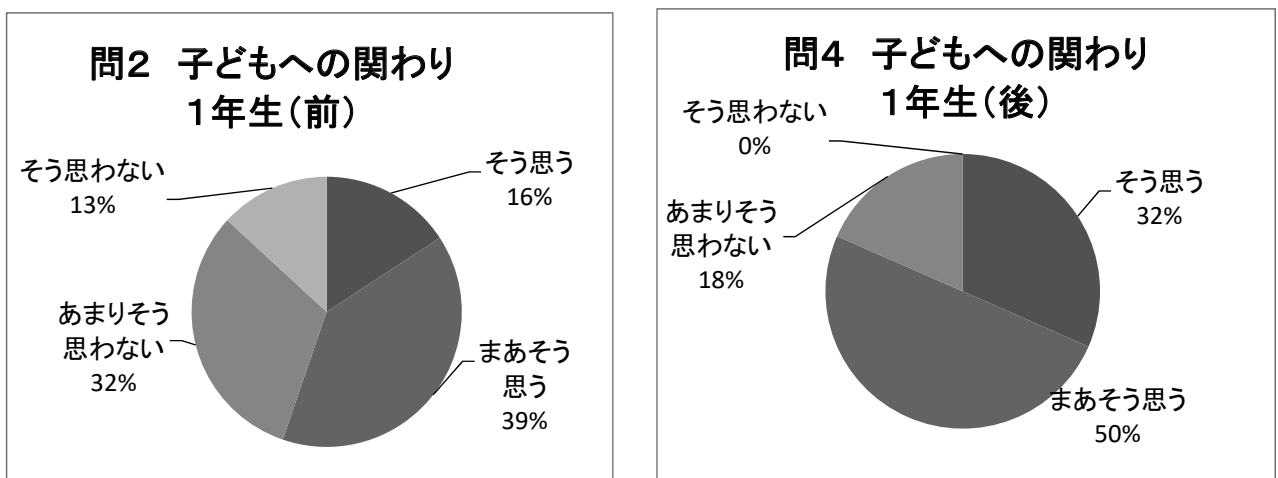


図2: あなたは、子どもへの関わりに自信がありましたか(前)。自信がもてましたか(後)。



(2) 保護者への関わり

保護者への関わりに自信がもてたかについて、ぶんぶんひろばの前後で尋ねたところ、2年生では、「そう思う」と回答した学生については大きな差がなかったが、「まあそう思う」と回答した学生が27%から52%と25ポイント増加した(図3)。また、1年生では、「そう思う」と回答した学生が8%から19%と11ポイント増加、「まあそう思う」と回答した学生が26%から47%と21ポイント大きく増加した(図4)。

2年生は、すでに保育所や幼稚園等での保育・教育実習を経験しているものの、実習中に保護者と関わる機会は少なく、ぶんぶんひろばで保護者と関わったり、保護者と子どもとの関わりを直接見たりすることは、卒業してすぐに保育現場で働く学生にとって意味のある活動であると考えられる。

図3：あなたは、保護者への関わりに自信がありましたか(前)。自信がもてましたか(後)。

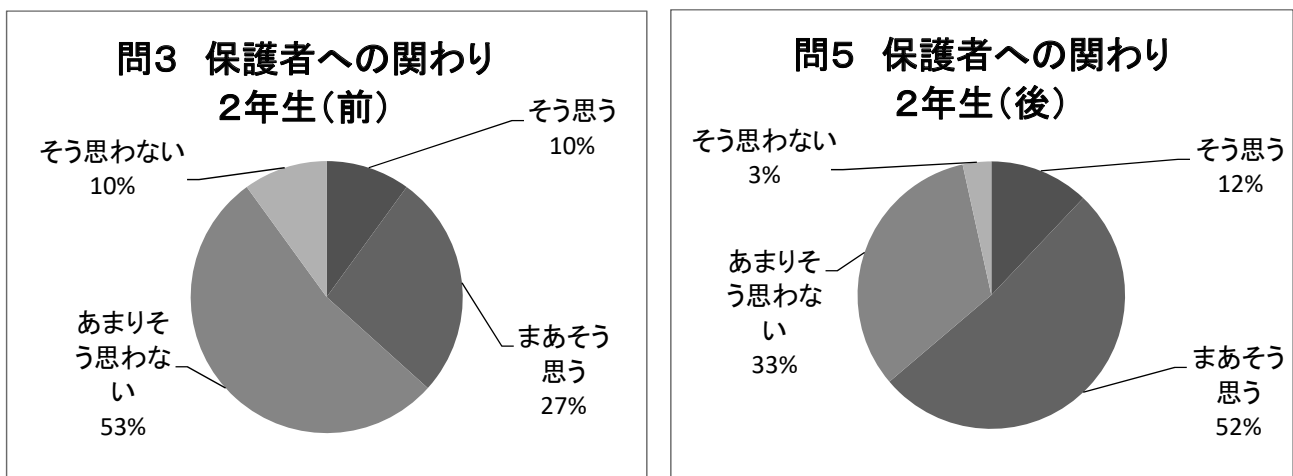
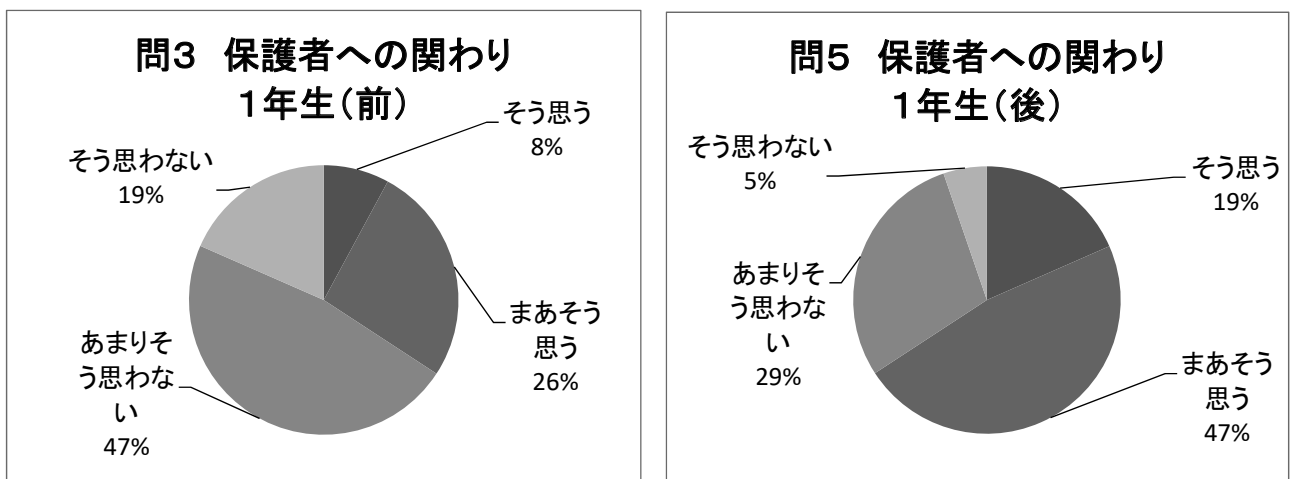


図4：あなたは、保護者への関わりに自信がありましたか(前)。自信がもてましたか(後)。



(3) 学修との関連

授業で学修したことがぶんぶんひろばで役に立ったか尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」と回答した2年生は91%、1年生は95%であった。また、今後の保育・実習に生かせそうか尋ねたところ、「そう思う」「まあそう思う」

と回答した2年生は93%、1年生は100%で、1年生の全ての学生がぶんぶんひろばの取り組みを肯定的に捉えていることが分かる（図5・図6）。

2年生で、授業で学修したことがぶんぶんひろばで役に立ったかと今後の保育・実習に生かせそうかの問いに、役に立ったと思わないと回答した2%、今後に生かせそうと思わないと回答した3%の学生は、いずれも小学校教諭養成コースの学生であった。小学校教諭養成コースの学生の中には、小学校教諭を目指す上で、乳幼児とその保護者との関わりをどのように生かすことができるのかを描けない学生もいる。2020年度から全面実施される小学校学習指導要領や本年度から実施された幼稚園教育要領・保育所保育指針等にも、幼小の円滑な接続が一層求められており、ぶんぶんひろばをサポートする教員が幼小接続を意識しながら学生に関わることが大切であると考え。

また、「ぶんぶんひろばをふり返って課題だと思うこと」を学生に尋ねたところ、1年生で、「学生がもっと主体になって実施したほうがよい」という意見があった。1年生は、初めてぶんぶんひろばを経験するため、学生に教えたことも多い。ぶんぶんひろばを通して学生に何を育てるのかを教員が共通理解し、学生の主体性、自主性を尊重しながら指導していきたい。

図5：今日のぶんぶんひろばでは、授業で学修したことが役に立ちましたか。

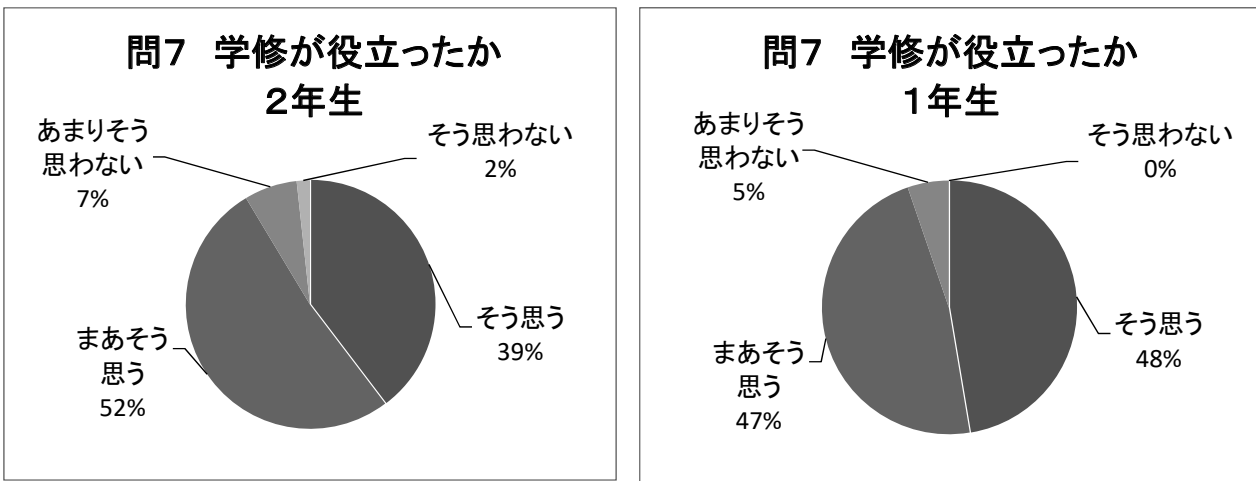
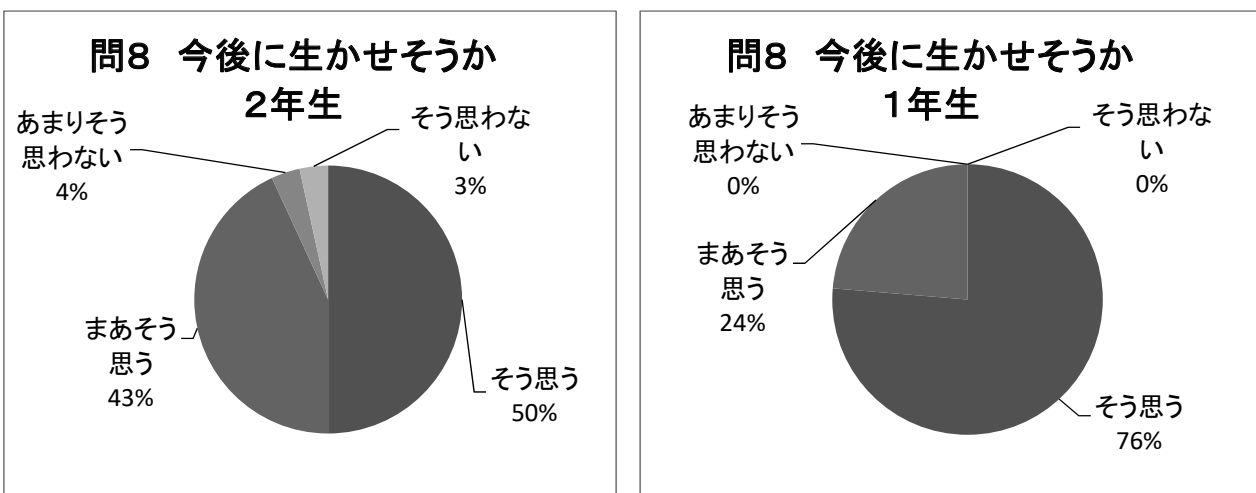


図6：今後の保育（実習）に生かせそうだと思いますか。



(4) 保育・教育実習との関連

本学では、保育所での保育実習を1年生の1月～2月に2週間と2年生の9月に2週間、幼稚園での教育実習を6月に4週間実施している。この学生アンケート(表3)は、2年生6月の教育実習終了後に実施した。

「教育実習では、ぶんぶんひろばで学修したことが役に立ちましたか」の問いに、「そう思う」「まあそう思う」と答えた学生は80.4%で、その内容として子どもへの関わりが85.4%と高い。子どもや保護者に直接接することは通常の授業では難しく、ぶんぶんひろばでの経験は大きい。

表3:教育実習後 学生アンケート

		第1回		第2回		第3回		1～3回 合計		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
①	教育実習では、ぶんぶんひろばで学修したことが役に立ちましたか。(1つに○)	そう思う	7	38.9%	5	27.8%	0	0.0%	12	23.5%
		まあそう思う	9	50.0%	9	50.0%	11	73.3%	29	56.9%
		あまりそう思わない	2	11.1%	2	11.1%	3	20.0%	7	13.7%
		そう思わない	0	0.0%	2	11.1%	1	6.7%	3	5.9%
②	①でそう思う、まあそう思うと答えた人に聞きます。どんなことが役に立ちましたか。(複数回答可)	子どもへの関わり	14	77.8%	12	66.7%	9	60.0%	35	85.4%
		保護者への関わり	7	38.9%	4	22.2%	4	26.7%	15	36.6%
		絵本の読み聞かせ	3	16.7%	3	16.7%	1	6.7%	7	17.1%
		製作活動	1	5.6%	4	22.2%	3	20.0%	8	19.5%
		音楽遊び	5	27.8%	3	16.7%	2	13.3%	10	24.4%
		運動遊び	6	33.3%	4	22.2%	0	0.0%	10	24.4%
		その他	2	11.1%	0	0.0%	1	6.7%	3	7.3%
③	①であまりそう思わない、そう思わないと答えた人に聞きます。ぶんぶんひろばで、どんなことを扱ってほしいですか。(複数回答可)	子どもへの関わり	2	11.1%	3	16.7%	3	20.0%	8	80.0%
		保護者への関わり	0	0.0%	2	11.1%	1	6.7%	3	30.0%
		絵本の読み聞かせ	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
		製作活動	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
		音楽遊び	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	1	10.0%
		運動遊び	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	1	10.0%
		その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

6. 保護者アンケート調査の結果

各回の終了後、保護者に回答をお願いしたアンケートの結果をまとめると、表4のようになった。(第6回10月27日は、大学祭と同時開催で自由遊びであったために、アンケートの回収状況が悪かった)

表4:平成30年度ぶんぶんひろば 保護者アンケート集計

<参加人数>

()内前年度比較

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	
	ふれあい遊び	身体を動かした遊び	さわって遊ぶ	夏の遊び	ミニ運動会	いろいろな遊び	お楽しみ会		
参加者(保護者)	15 (+10)	38 (+14)	30 (-21)	49 (+14)	44 (-5)	45 (+1)	38 (±0)	259	(+13)
参加者(乳幼児)	19 (+14)	45 (+18)	31 (-24)	74 (+38)	61 (+2)	58 (+7)	50 (+2)	338	(+57)

1 お住まいの地域について、あてはまるものに○をつけてください。(1つに○)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
長浜市	8	29	22	33	31	4	27	154	74.0%
米原市	2	6	6	9	8	0	6	37	17.8%
彦根市	3	2	2	3	2	0	3	15	7.2%
その他	1	1	0	0	0	0	0	2	1.0%
合計	14	38	30	45	41	4	36	208	100.0%

2 ぶんぶんひろばを何で知りましたか。(複数回答可)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
チラシ(さんさんランド)	2	7	5	13	13	2	9	51	24.5%
大学ホームページ	0	0	4	1	3	1	2	11	5.3%
以前に参加して	4	8	9	14	14	0	19	68	32.7%
知人/友人に誘われて	8	11	13	14	14	0	14	74	35.6%
その他	0	5	1	5	2	1	4	18	8.7%
合計	14	31	32	47	46	4	48	222	

* その他:ながまるキッズ

3 どのような理由で、ぶんぶんひろばに参加してみようと思われましたか。(複数回答可)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
子どもの友だちを探して	1	3	4	1	2	0	1	12	5.8%
子どもの遊び場を求めて	10	23	23	43	33	4	32	168	80.8%
ママ友/パパ友を探して	0	1	1	0	1	0	0	3	1.4%
知人/友人に誘われて	6	11	8	6	6	1	6	44	21.2%
参加したい活動があったから	0	3	7	16	14	0	7	47	22.6%
保育者を目指している学生による企画だから	1	7	2	3	5	0	5	23	11.1%
以前参加して良かったから	2	6	9	14	14	0	15	60	28.8%
その他	0	0	0	0	0	0	2	2	1.0%
合計	20	54	54	83	75	5	68	359	

4 前回実施した「ふれあい遊び」などの活動を家庭でもされましたか。(1つに○)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
何度かした		3	4	10	12	1	14	44	38.6%
1回した		1	5	5	8	2	11	32	28.1%
全くしなかった		5	5	12	11	0	5	38	33.3%
合計		9	14	27	31	3	30	114	100.0%

5 今日、参加して良かったですか。(1つに○)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
大変良かった	9	12	17	29	23	3	17	110	52.9%
良かった	5	19	13	16	17	1	15	86	41.3%
やや改善が必要	0	0	0	0	1	0	4	5	2.4%
改善が必要	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	14	31	30	45	41	4	36	201	96.6%

6 学生のお子さんへの対応はいかがでしたか。(1つに○)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
大変良かった	11	15	15	29	23	3	22	118	56.7%
良かった	3	15	15	16	17	1	13	80	38.5%
やや改善が必要	0	1	0	0	1	0	1	3	1.4%
改善が必要	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	14	31	30	45	41	4	36	201	96.6%

7 ぶんぶんひろばで、どのような活動をしてほしいですか。(複数回答可)

	4月25日	5月23日	7月11日	8月22日	10月10日	10月27日	11月28日	合計	割合
絵本の読み聞かせ	5	4	8	14	11	2	9	53	25.5%
体を動かす遊び	10	23	22	37	34	3	30	159	76.4%
音楽遊び(わらべうた、手作り楽器など)	9	21	21	25	22	2	23	123	59.1%
感触遊び(粘土遊び、水遊びなど)	10	21	22	27	26	2	28	136	65.4%
その他	2	0	1	1	3	0	0	7	3.4%
合計	36	69	74	104	96	9	90	478	

* その他:家ではできない遊び、色水遊び、リトミック

(1) 各回の親子の参加人数と参加者の多い活動内容

特に参加者が多かったのが、8月22日に実施した第4回「水遊びをしよう」の活動である。アンケートで、「ぶんぶんひろばで、どのような活動をしてほしいですか」と尋ねたところ、体を動かす遊びが76.4%と高く、次いで感触遊び（粘土遊び・水遊びなど）が65.4%、音楽遊び（わらべうた、手作り楽器など）が59.1%と高い数値を示している。保護者は、家庭では経験できにくい遊びを子どもたちに経験させたいという思いもあって、ぶんぶんひろばに参加していることが窺える。

(2) 事業への地域住民の参加状況と広報

アンケートとは別に、参加者名簿から各回への地域別参加者の割合を示したのが、表5である。各回とも地元長浜市在住の参加者が多い。本学が、米原市に隣接していることもあり、米原市からの参加者が2割弱となっている。

また、「ぶんぶんひろばを何で知りましたか」の問いには、「知人・友人に誘われて」が35.6%「以前に参加して」32.7%と高く、次いで「チラシ」が24.5%となっている。チラシは、長浜市の子育て支援センターや本学近隣の幼稚園・保育所・こども園に等に置かせていただいております、今後もチラシでの案内を継続することが必要である。

表5：地域別参加者の割合

	内容	長浜市	米原市	彦根市	その他
第1回	ふれあい遊び	57.1	14.3	21.4	7.1
第2回	身体を動かして遊ぼう	76.3	15.8	5.3	2.6
第3回	さわって遊ぼう	73.3	20.0	6.7	0
第4回	水遊びをしよう	73.3	20.0	6.7	0
第5回	ミニ運動会	75.6	19.5	4.9	0
第6回	さまざまなコーナーで遊ぼう	77.3	18.2	4.5	0
第7回	お楽しみ会	75.0	16.7	8.3	0

(%)

(3) 子育て世代のニーズ

アンケートの「どのような理由でぶんぶんひろばに参加してみようと思われましたか」の問いには、80.8%の参加者が「子どもの遊び場を求めて」と回答し、「以前参加して良かったから」28.8%、「参加したい活動があったから」22.6%、「知人、友人に誘われて」21.2%と続いている。

本学の周辺地域は、田園地帯が広がり自然環境の豊かな地域である。子育ての環境としてはよいが、同年齢の子とも触れ合う機会が少ない。また、子育て世代の人口が減少し、近隣に幼稚園・保育所があるものの、未就園児が安心して遊べる施設は少ない。参加者の8割以上が乳幼児のふれあいの場・遊び場を求めて参加していることがわかる。

本学が開催するぶんぶんひろばは、授乳室等を備えた大学の施設であるという安心感がある。また、学食での昼食の場なども提供している。「保育者を目指している学生による企画だから」と回答した保護者も11.1%あり、保育士養成コースを有する大学ならではの子育て支援活動への期待が窺える。

さらに、問4では「前回実施した「ふれあい遊び」などの活動を家庭でもされましたか」について尋ねたところ、「何度かした」38.6%、「1度した」28.1%であった。約7割の保護者が、ぶんぶんひろばで活動したことを家庭でも実施していただいております、ぶんぶんひろばの活動が家庭での乳幼児の遊びを広げることにつながるなど、子育て支援として役立っていると考えます。

7. 教員アンケート調査の結果

本年度のぶんぶんひろばの全日程を終了後、子ども学科教員にアンケートを実施した。

ぶんぶんひろばへの教員の関わり方としては、ぶんぶんひろばを直接担当し学生を指導する教員と、ぶんぶんひろば当日、受付や駐車場、記録等で側面から支える教員とに役割を分担し、子ども学科全体で取り組みを進めている。

(1) 学生の育ち

教員が捉えた学生の育ちとしては、次のようなものが挙げられる。どの教員も、ぶんぶんひろばを通して学生に確かな育ちが見られると感じており、ぶんぶんひろばの教育的意義は大きい。

<教員アンケートからの抜粋>

- ・チームワークに必要な力（聞く力、話す力）など、どのような内容で、だれが何をするかの話し合いの中で育っていった。
- ・実践的な場を想定してぶんぶんの活動を選択することができた。特に月齢による発達については考慮して、手遊び、絵本の選択、遊びの紹介の仕方など身につけてきた。
- ・「ぶんぶんひろば」が大学の行事として定着してきたことで、学生たちの意気込みも変わってきた。学生が主体的に取り組むことで、さまざまな場面を想像して臨機応変に動けるようにもなっている。
- ・乳幼児との関わり方や、話し方、動き方など、基本的なことについて体験を通して学んだ。
- ・各回のテーマに応じて、授業で学んだことを、ぶんぶんひろばを通して実践に応用する力が身につけてきた。
- ・実践の機会が増え、現場をイメージしやすくなったこと。園とはまた違った子育て支援活動を行えたこと。
- ・子育て中の親が子どもの遊び場をいかに求めているかに気づき、子育て支援の大事さを知るきっかけになっている。
- ・保育技術が試されるので、失敗も含めて実習前には良い勉強になり、少しでも実習に対する不安解消になっている。

(2) 指導法・授業改善の視点

ぶんぶんひろばを振り返って、指導法や授業改善に生かしたこと、今後生かしていきたいことを教員に尋ねたところ、次のような回答を得た。

<教員アンケートからの抜粋>

- ・課題解決型の学習を取り入れた授業をしていくようにしている。課題を明確にしながら、どこまで学生に任せていくかを見て、主体的に学べるようにしていきたい。
- ・人と比べることなく自信をもって子どもたちの前に立てるように、その学生なりのよさを見つけて声をかけ励ましていった。
- ・ピアノ実技科目においては、季節に応じた弾き歌いのレパトリーを増やし、ぶんぶんひろば等で実践できるようにしたい。また、歌うだけでなく身体を使った遊びにも発展できるように、授業内でも多様な活動を組み込んでいきたい。
- ・1年生の授業で取り組みの内容や実際の様子など、授業内容と関連させて紹介した。
- ・学生の主体性や創造力を生かした取り組みも2年生の時点では見たい。そうした方向への指導改善ができればと思う。
- ・個々を見る事から、全体を見る力を付けられるような内容の工夫をする。
- ・授業内容にもよるが、なるべく多くの学生に発言や発表の場を設け、理想としては、建設的な議論の末に協力して活動に取り組んだりする機会が得られるように授業を展開したい。

- ・授業改善の視点として、学生の能動的な学びから主体的な学びへの転換を意識して取り組んだ。

このように、ぶんぶんひろばを通して、一人ひとりの学生の良さや可能性、臨機応変の対応が求められる保育・教育現場に学生を送り出す上での課題などが明らかになった。ぶんぶんひろばは、教員にとっても授業改善に生かすことができる取り組みであると言える。

8. 考察

(1) ぶんひろばの教育的意義

前述の通り、幼稚園での教育実習を終了した2年生に実施したアンケートでは、8割強の学生が、ぶんぶんひろばで学修したことが教育実習で役に立ったと答えており、中でもぶんぶんひろばでの子どもへの関わりが役立ったと感じている学生が85.4%と高い。

ぶんぶんひろば終了後に実施したアンケートでも、1年生、2年生ともに、ぶんぶんひろばを経験した前後では、子どもへの関わり、保護者への関わりに自信をもった学生が増加している。とりわけ、1年生は複数の乳幼児に初めて関わる学生も多く、子どもへの関わりに自信がなかったり、やや自信がなかったりした学生にとって、ぶんぶんひろばでの子どもとの関わりは、保育者を目指す学生に自信を与えるものであると捉えることができる。

1年生に実施したぶんぶんひろば終了後の振り返りでは、「よかったこと・学んだこと」として、「子どもの笑顔を見て、やっぱり保育士になりたいって思えたことがよかった」「授業では実際に子どもがいないところだったのでわかりにくい部分もあったが、ぶんぶんひろばを通して、年齢にあった発達などが詳しく見られた」と回答した学生もいて、子どもと直接触れ合える意味は大きい。また、他の学生は「今後に生かしたいこと」として、「ぶんぶんひろばは、子どもたちとたくさん遊んだり話したりして、子どもの成長を学べるいい機会なので、今後の実習に生かしたいと思います」と回答しており、ぶんぶんひろばでの子どもと直接関わる経験が、保育者や保育実習への思いを強くしていることが窺える。

通常の授業では、子どもや保護者と直接関わることは難しく、ぶんぶんひろばだからこそできる貴重な経験である。ぶんぶんひろばは、学生の保育感覚を磨く上でも意味のある取り組みである。

また、ぶんぶんひろばは、教員にとっても大きな学びの場である。ぶんぶんひろばを通して、教員も学生の成長を実感するとともに、課題解決型の授業を工夫するなど、学生の学修成果の向上や課題の克服に向けて授業改善を進める一助としても意義がある。

(2) 地域の子育て世代のニーズ等の分析と、子育て支援としてのぶんぶんひろばの役割

子ども学科2年生の「家庭支援論」の授業の中で、表4「保護者アンケート集計結果」を学生に公表し、大学で行う子育て支援の意義と、来年度のプログラムについて検討する機会を設けた。

学生は、家庭支援は机上での学びではなく、自分たちが企画・運営してきたぶんぶんひろばもその一端を担っていたことを実感することができた。

大学で行うぶんぶんひろばの意義としては、次のような内容を話し合った。

<学生が捉えたぶんぶんひろばの意義>

○子育て支援として

- ・地域と大学との関わりをもち、地域に根ざした学校を目指す。
- ・保育に関わる大学として、子育て中の親の支援を通して役割を果たす。

- ・地域の関係づくり、子育て意識を高めることにつながっている。
- ・地域の人々と出会い、知り合うきっかけにもなり、子育てに積極的になる。
- ・様々な年齢の子ども同士が触れ合える機会となるため、影響を受けることができる。
- ・未就園の子どもたちの集団での経験ができる場を作る。

○学生の学びとして

- ・経験を通して保育についての学びを深める。
- ・保護者から直接お話を聞き、保育の中での支援につなげる。
- ・学生の普段学んでいることの実践の場。実践力を高める場。
- ・学生にとっては、授業で学んだことを生かして計画を立て、子どもたちに触れ合えるリアルな学びの場であり、保護者、子どもにとっては普段できない遊びができたり他の親子との交流できたりする場。
- ・学生は、今まで培ってきたレパトリーが生かせ、子どもへの対応、保護者対応が学べる。学生同士で協力することで、コミュニケーション能力や協調性なども向上できる。連携の大切さや保育士になる意識向上にもつながる。

来年度のプログラムとしては、大部分の学生が、水遊びや運動会、ふれあい遊び、音楽遊びを考えていた。本年度実施していない活動内容で、学生が考えたプログラムは、次のようなものである。

<学生が考えたプログラム>

- ・こどもの日に向けて、こいのぼり作りをする。
- ・秋にどんぐりや松ぼっくりなどの自然物を使って手作り楽器を作り音楽遊びをする。
- ・お楽しみ会をクリスマス会にする。
- ・新聞紙のファッションショーをする。
- ・やきいもパーティーをする。

学生は、保護者や子どもたちが望んでいる活動内容をふまえながら、季節に合わせた計画を立てており、学生の企画力・創造力、主体性を育てるためにも、次年度以降の活動内容に取り入れたい。

9. おわりに ～今後の取り組みに向けて～

ぶんぶんひろばは、学生よし、参加者（子どもと保護者）よし、教員よしの三方よしの活動である。

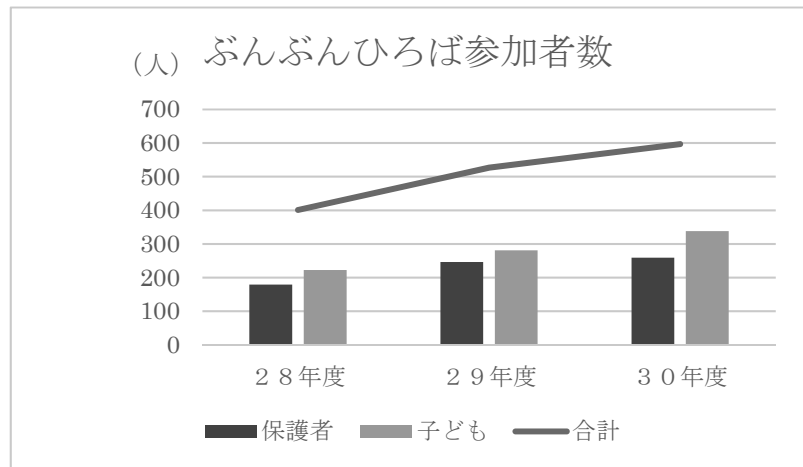
保育者や小学校教員を目指す学生が、乳幼児の発達や保護者との関わりを直接学ぶ場としての意義は大きい。目の前の学生を見ていると、乳幼児期・学童期にはゲーム機で遊ぶことが多かった学生もいて、自然の中で遊んだ経験、直接体験が少なく、乳幼児の遊びを知らない学生もいる。地域や社会が大きく変化する中で、今後その傾向はさらに加速すると考える。ぶんぶんひろばでの遊びを企画することで、乳幼児期の遊びを学ぶ学生もいる。ぶんぶんひろばへの学生の参加は、一人の学生につき年間1～2回であるが、希望する学生には担当以外の回にも参加を認めていくことも検討したい。ぶんぶんひろばは、時代が求めるアクティブ・ラーニングの場であり、教員の学生理解や指導法の改善にも役立っている。

また、地域の行政機関とも連携し、子育て支援課の職員も参観に来られたり、地域の子育て支援広報誌に掲載して頂いたりしており、ぶんぶんひろばへの参加者が年々増加傾向にある（図7）。こうしたことから、本学の取り組みが地域に根付き、地域の子育て支援活動の一端を担っていると考える。

さらに利用継続のためには、ぶんぶんひろばの周知方法、内容の検討が必要となる。今後も子育て世代のニーズを把握し、地域が求めている子育て支援を提供していくことが必要である。

今後の研究の方向性としては、1年生の学生は、ぶんぶんひろばの企画・運営を経験した後、保育所での保育実習を行うため、本年度1年生の意識調査を継続して行うとともに、学生を抽出して、PROG結果も取り入れながら、学生が保育者として必要な実践力を身に付けていく過程でのぶんぶんひろばの教育的効果を研究する。具体的には、1年生4月と2年生11月に実施するPROGテスト結果において、リテラシーとコンピテンシーの両面から成果の上がった

図7：ぶんぶんひろば参加者数



学生を抽出し、聞き取り調査等を通じてぶんぶんひろばの教育的効果を明らかにしたい。

今後も学生の資質を高め、保育力・実践力の向上を目指して、地域に根ざした子育て支援の場を充実させていきたい。

<参考文献>

- ・春日由美・金子 幸・黒川久美「子育てひろば「みなみん」におけるアンケート調査から見えてくるもの」(2016)南九州大学人間発達研究第6巻 pp.57～62
- ・「地域子育て支援センター利用者アンケート実施結果」平成 25 年 3 月 名古屋市子ども青少年局保育部保育運営課・保育企画室

注：ぶんぶんひろばWGメンバー

大橋英子（子ども学科教授）、藤井美津子（子ども学科准教授）、藤田哲也（子ども学科講師）、中村愛（子ども学科講師）、今若幸子（子ども学科講師）、藤山あやか（子ども学科講師）、加藤仁（子ども学科講師）、橘那由美（子ども学科講師）、伊藤孝子（子ども学科講師）

子ども学科講師